

RPS NETWORK

日本鉄道保存協会 会報

Railway Preservation Society of Japan

2019年9月号

「保存ということ」

花上嘉成 (顧問/東武博物館名誉館長)

旅先では、いつでも何処でも、思いもしなかった出会いがある。それが旅であるが、そんな中で、感激したり喜んだり、少し寂しくなることも度にある。

鉄道車両にしても、町並みにしても、どんな物でも、そこで大事にされているから、貴重だ、重要だと言うことが出来る。ところが、近年の傾向として、ある物を確保したり、ただ残すという事だけに主眼が置かれ、その後は、はやく言えば、押っ放し離し、おまけに荒れ放題というのを、よく見掛ける。

加えて、地元で親しまれ、愛された物が、そこから遠

く離れた地へ、関係も無い所へ、持って行かれてしまう例も多い。

そんなことが「保存」ということでよいのかと疑問に思うことがある。これは私だけなのだろうか。

車両に限らず、貴重な資料なども、大切にされず、処理されどんどん消えていくことが多くなっている。特に、今存在していない物(例えば車両等)は、必要ないということで、何も残されないのが昨今の実情である。

ここで改めて「保存」ということを、早くみなさんと、考えなければならない時がきていると考える。

2018年度総会・見学会を開催

事務局長 米山淳一

平成30年度の総会・見学会は、近代化遺産を観光資源として活用し、地域活性化に活かす取り組みの先進地として知られる小坂町(秋田県)で開催しました。ホスト役は小坂鉄道レールパークのボランティア活動を行っている小坂鉄道保存会です。会長の千葉裕之さん、事務局長の亀沢修さんと綿

密な打ち合わせを重ね、9月21日(金)～22日(土)の2日間にわたっての開催の運びとなりました。

全国各地から会員、賛助会員、友の会会員、オブザーバーの皆様が総勢70名参加され、活発な情報交換が行われ、楽しく交流を深めました。



小坂駅構内ラッセル車の前で記念撮影。2018年9月22日



◀小坂駅ホームに停車するブルートレイン「あけぼの」に乗車体験も

▶上：総会でありさつする菅建彦（代表幹事団体公益財団法人交通協力会会長）

▶下：シンポジウムは「近代化遺産としての鉄道を生かしたまちづくりと観光」をテーマに開催



2018年度総会・見学会 ダイジェスト



国指定史跡の尾去沢鉱山を見学



明治百年通りにある歴史的建造物、旧小坂鉱山事務所



尾去沢鉱山の坑内外には、バッテリーロコ、鉱車が展示されている



小坂鉄道レールパークの顔。小坂駅舎



B寝台の車内には、車内検札や車内販売が現れ、参加者はおおいにあり、懐かしく楽しい時間を過ごした

C11 1号を東武鉄道に向けて搬出

当協会では、北海道江別市で、北海道の炭鉱で活躍していた歴史的蒸気機関車等を静態保存している。縁あってその中の一両C11 1号を昨年度、東武博物館に売却。平成30年11月8日、多くの皆さんが見守る中、東武鉄道により南栗橋SL検修庫に向けて搬出作業が行われました。当日はお天気に恵まれ、午前10時から準備作業が開始され、午後3時過ぎに車両運搬用の大型トレーラーに積み込みが無事に完了しました。

その後、陸路で苫小牧港まで運ばれ、大型トレーラーとともにフェリーで大洗港へ、さらに陸路で南栗橋を目指しました。数年後には、鬼怒川線で復活予定です。

（事務局長 米山淳一）



クレーンで釣り上げられたC111号

外国製の特殊トレーラーに積み込まれた様子

「C11 1号機復元への旅」 花上嘉成（顧問／東武博物館名誉館長）

●最初の苦難

北海道から本州へは、2018(平成30)年11月9日にさんふらわあ“さっぽろ”で、苫小牧港を立つ予定であったが、低気圧の通過で海が荒れ、船に積み込めず、発送は11月12日に延期され、大洗港へは、翌11月13日に陸揚げされる。

話は現在活躍中のC11 207号機になるが、やはり苫小牧港から大洗港へ送られる計画で、本体は無事積み込まれたが、別のトラックへ分散したキャブや煙突、従台車等は、台風の影響で、小樽港へ回され、ここから新潟港というルートで、本州に陸揚げされている。



大洗港へ陸揚げされたC111号機本体。2018年11月13日。

P: 花上嘉成



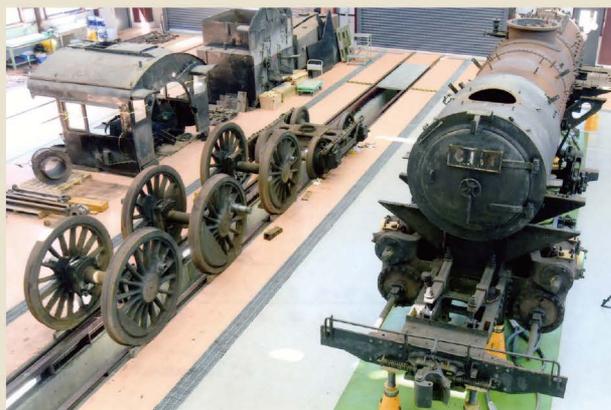
先ず、ピンを抜いて、先輪を外す。2019年4月3日南栗橋SL検修庫。

P: 花上嘉成



動、従輪抜き。2019年4月4日南栗橋SL検修庫。

P: 花上嘉成



バラバラになったC111号機。2019年4月4日南栗橋SL検修庫。P: 花上嘉成



ボイラ外し。2019年5月7日南栗橋SL検修庫。

P: 花上嘉成

両者は途中で合流して、東武の南栗橋車両基地に到着する。

いずれの蒸気とも、住み慣れた北海道を離れたくなかったのかもしれない。そして、話は再びC11 1号機に戻るが、大洗港へ到着した2018年11月13日、不思議なことに、同日C11 207号機が故障し、下今市から南栗橋SL検修庫へ回送されている。

C111号機は、翌11月14日ギリギリの所で南栗橋車両基地へ到着。キャブ、石炭車等を外された姿で、マスコミ関係者に披露された。

検修庫到着後は、東武ファンフェスタでも披露されたが、しばらくは庫内で、静かに休息をとる。

●C111号機復元に向けて

2019(平成31)年4月4日、ようやく動きが出て、機関車本体から動従輪等が外される。さらに5月7日には、



台枠(右)、キャブ、石炭車、ボイラに分けられる。2019年5月7日南栗橋SL検修庫。P: 花上嘉成

台枠からボイラ等が外される。こうしてC111号機は、台枠、ボイラ、動従輪、先に外されていたキャブ、石炭庫、側水タンク等、バラバラにされて、ちょっと寂しい姿になる。

2019(令和元)年7月1日になると、各部の調査を終えて、ボイラと一部の部品が、南栗橋からトラックに載せられ、大阪のサッパボイラへ発送された。翌7月2日早朝に大阪に到着。さっそく検査がはじめられ、7



早朝、大阪のサッパボイラへ出発。2019年7月2日南栗橋SL検修庫。

P: 花上嘉成



月3日の水圧試験に向けて、準備が進められる。

こうして、これから時間を掛けて検査・修繕が行われ、2020(令和2)年5～6月頃には、再び南栗橋へ戻される計画である。

特別
寄稿

鉄道保存活動の原点と日本鉄道保存協会

大島登志彦さん



私と鉄道保存の出会いは、歴史遺産の保存に関心を持って(財)観光資源保護財団(後に日本ナショナルトラスト)の会員になり、現在当協会事務局長の米山淳一様と面識を持ったことに始まります。米山様は、当時大井川鉄道でのトラストトレイン運行や各地の鉄道保存活動を手がけており、上記財団の調査報告書として「鉄道文化財調査報告」と「活かそう鉄道文化財」(写真)を発刊しました。私は、その情報収集や編集に興味関心を深めて、新聞や雑誌の断片的な記事を手がかりに、鉄道資料館や保存車両の一覧表の作成のとりまとめました。今でこそ、博物館や保存車両は、インターネット、鉄道友の会会報やJTBキャンブックス等で簡単にリストアップできますが、当時、鉄道保存事情の調査は暗中模索でした。したがって、両報告書は、保存車両をリストアップした先駆であった



日本の鉄道保存活動の原点の一つと言える当時の(財)観光資源保護財団が発刊した2つの報告書

とともに、「鉄道文化財」という用語が日本で最初に書かれた著だと認識しており、鉄道保存活動の原点の一つになったと確信してきました。

私は、その後、地方鉄道やローカルバスの活性化やその地域的役割、鉄道保

存を中心とした産業考古学を主体に研究を進める中で、最近では、鉄道史学会会長や鉄道友の会北関東支部長、産業考古学会理事等を務めて来ました。また、2ヶ月に1回程度、交通新聞の評論欄に、5年以上に亘って30回、鉄道や路線バス、ユニークな市町村や山河の地形について書かせていただきました。

鉄道保存のあり方やその意義を考察していくと奥が深く、私は、まだまだ未熟ではありますが、米山様をはじめとする当協会事務局や構成各種会員、諸施設等々にもお世話になりながら、鉄道の保存活動や情報交換に尽力していきたいと思えます。今回総会が開催される長浜・敦賀地域は、琵琶湖や敦賀港が背景にある交通の拠点であるとともに、柳ヶ瀬・山中・深坂・北陸等の長大トンネルを含んだ厳しい地形に囲まれて、苦難を切り開いてきた鉄道黎明期の要所で、鉄道保存発祥の地の一つです。今回の講演・シンポジウム、見学会等については、私も可能な限り尽力しながら、一連の大会が有意義かつ多くのことを学べる場となることを期待しています。

※大島登志彦氏は、地理学を専攻され、当会で長年顧問として尽力して来られた青木栄一先生の門下生として1985(昭和60)年に東京学芸大学大学院を修了。現在は高崎経済大学に勤務しておられます。2019年度総会で顧問に就任していただく予定です。

TOPICS

蕨市のC11型蒸気機関車の保存にアドバイス

東北本線、高崎線、京浜東北線の電車が行き交うすぐそばにある蕨市交通公園にC11 304号蒸気機関車が静態保存されています。地元の市民団体「わらびてつどう倶楽部」の皆様が日々清掃や保守点検を行い、美しい状態にあります。

東武鉄道関連企業と蕨鉄道保存会の依頼を受けて、平成30年6月8日、花上嘉成顧問と米山淳一で見学にお伺いいたしました。当日は、保存会の平湯会長や会員の皆さん、蕨市

市議会議員の方々がお集まりになり、将来に向

左: C11 304号の勇姿



右: 皆で記念撮影 真ん中が花上顧問



けた保存についてご相談を受けました。

皆様は、機関車を静態展示ではなく、汽笛が鳴り、動く姿を子供達に見せたいとお考えをお持ちでした。そこで、若桜鉄道の事例を紹介し、圧縮空気で作動することを提案させていただきました。今後の展開に期待しましょう。(事務局 米山淳一)

RPSJ information

2019年度総会・見学会のご案内

2019年度総会・見学会は9月26日(木)~27日(金)に、長浜市の北ビワコホテルグラツィエで開催します。「鉄道遺産を生かしたまちづくりと地域活性化」をテーマにシンポジウムを、また旧北陸線トンネル群など長浜市、敦賀市、南越前町にまたがる鉄道遺産を見

学します。宿場町や港町として古くから栄え、交通の要所として発展してきた滋賀県と福井県の県境にまたがるこのエリアが連携し、鉄道遺産を中心とした近代化遺産の保存活用を推進している事例を学び

■日本鉄道保存協会 会報 2019年9月号 編集・発行/日本鉄道保存協会
事務局(仮)/〒231-0012 横浜市中区相生町3-61 泰生ビル405 公益社団法人 横浜歴史資産調査会
TEL・FAX/045-651-1730 MAIL/info@rpsj.jp

※常勤者ではありませんので、お急ぎの連絡は下記宛をお願いします。

米山淳一(事務局長): 080-5525-1571

ホームページ <http://www.rpsj.jp/>